

婦人保護部会

婦人保護部会（概要版）

【提言項目】

1. 地域生活移行支援「ステップハウス」の人材確保・維持管理費の補助
有料にて支援員を確保
2. サービス推進費〈努力実績加算〉についての改善；
 - 1) 次世代育成支援 —— 若年支援・母子関係調整
 - 2) 人間関係調整支援 —— 幾多の障害、暴力（DVなど）による自尊心の回復
3. 性被害者支援センターの設立
 - 1) 被害者支援のネットワーク作り
地域での対応＝性暴力対応チームの取り組み

【婦人保護部会とは】

東京都社会福祉協議会の会員施設である都内5箇所の婦人保護施設でもって組織されている。本部会は、施設長及び従事者によって運営され、婦人保護事業の増進や施設職員の資質向上等を期するため、東京都女性相談センターを始めとする関係諸機関との関係強化を図りつつ、調査・研究活動、職員研修会の開催、婦人相談員等との懇談会の開催等の事業を行っている。

婦人保護部会（詳細版）

【提言項目1】

地域生活移行支援「ステップハウス」への人材確保

【現状と課題】

婦人保護施設にも地域生活移行のために必要な「ステップハウス」機能が認められ、その展開への取り組みが実施され始めている。

実践によって自分の苦手とする部分が明らかになり、再出発に向けて大きな役割を担っている。現状では支援職員が不足しており、今後は生活スキル習得のための具体的な支援者の確保が必要である。

【提言内容】

生活はしてきたが「自分らしく暮らす」環境にはなかった。安心と安全な環境の中で何が必要か、何を大切にすべきかその段取りを学ぶことは大きい。生活実践を通して今後を生きる活力を得る。

支援者は実践を通して「生きる、存在する意義」を専門職として伝える。支援者の存在は大きい。また、ステップハウスの維持管理費への補助を望みたい。

【提言項目 2】

サービス推進費<努力実績加算>についての改善

【現状と課題】

- (1) 母子生活支援施設と同様の支援を求められてはいるが、婦人保護施設での児童支援への手当てはされていない。また、多くの複雑な課題を抱えた女性への支援にも膨大な時間を費やしている。女性ゆえの課題も大きい。加算の対象にして欲しい。
- (2) DV被害者の支援はメンタルなケア、危機管理上の整備などリスクが大きい。もっとも必要な自尊心の回復にはより専門性が求められている。

【提言内容】

複雑、困難な対象者支援に対しての疲弊感を持ちながらも、女性への高い人権意識に立ち向かっている支援者への加算を願いたい。

【提言項目 3】

性被害者支援センターの設立

【現状と課題】

性暴力の増加は著しい。さらに乳幼児期からの性虐待によって「自分を生きる」ことを奪われてきた女性たちが生活の中で様々な行動化をする。集団行動不適合、反社会的な行動、性行動など悲惨な生活史が背景にある。施設内だけでの支援には限界を感じている。

【提言内容】

それらの女性たち（子どもたち）が、「自分は悪くない」ことを自覚し、自信を回復し、希望を持って生きるための場所「支援センター」の設立は急務である。

福祉・医療・法律・心理・カウンセラーなどを支援ネットワークにもつ関係者が必要である。

<暴力撲滅に向けてのメッセージ発信>

暴力を未然に防ぐ意識啓発を共有する。

性被害の実態；セクシャルマイノリティ、子どもの性被害、高齢者被害、男女間の性暴力
セクハラ、ポルノグラフィ、インターネットなど

暴力撲滅に向けて行動を起こす。チームでの連携を持った取り組みが必要である。